

第7次高浜市総合計画審議会（第10回） 会議録			
日 時	令和5年1月10日（火）午後6時～7時10分		
場 所	高浜市役所 会議棟	傍聴人数	0名
出席者	委 員	中川幾郎、水野輝久、前川勉、宮田克弥、杉浦秀敏、神谷章一、 畠孝二郎、酒井幸代、中川健二、坂本直敏、新美純子、横山英樹、 深谷直弘 (13名出席)	
	行 政	市長 吉岡初浩 教育長 岡本竜生 総務部長 杉浦崇臣 市民部長 岡島正明 福祉部長 磯村和志 こども未来部長 磯村順司 都市政策部長 杉浦義人 議会事務局長 竹内正夫 (8名出席)	
	事務局	企画部長 木村忠好 総合政策グループ リーダー 榊原雅彦 同 主 査 祖父江佑介 同 主 任 多武利康 同 主 任 柘植一馬 同 主 事 村松邑馬 同 主 事 嶋本花凜 同 主 事 東端佑奈 同 主 事 杉浦功暉 (9名出席)	
次 第	1 開会 2 議事 1) 第7次高浜市総合計画（修正案）について【審議】 2) 答申鏡文（案）について【審議】 3 その他		
資 料	参考資料1：第7次高浜市総合計画（修正案） 参考資料2：第7次高浜市総合計画について（答申）		

1. 開会
<p>(会長あいさつ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日はご多忙の中、お集まりくださいまして、ありがとうございます。ただ今より第10回高浜市総合計画審議会を開会する。 ・本日が第7次総合計画の最終審議となり、会議の最後には答申できるよう計画案を確定してまいりたいと思っているので、宜しく願いたい。

2. 議題	
1) 第7次高浜市総合計画（修正案）について【審議】	
会長	・それでは議題1「第7次高浜市総合計画（修正案）」について、事務局からご説明願いたい。
事務局	(参考資料1「第7次高浜市総合計画（修正案）」に基づき口頭にて説明)
会長	・ありがとうございます。そんなに大きな修正はないと判断しているが、確定するに際してご意見があれば賜っていきたくと思うのでご忌憚なくご発言をいただきたい。
委員	・29ページのみんなでできることについて、前回会議では「外国籍の方に対して、防災知識習得や啓発に取り組む」は防災の個別目標シートに移したらどうかと意見した。今回反映されていないことについて説明をお願いしたい。
事務局	・みんなでできることについては、大体5個程度を掲載させていただいているが、防災のシートは防災だけでなく、防犯、交通安全の内容もあり内容が多くなっているので、掲載を見送らせて頂いた。
会長	・掲載していないからやらないということではないという理解でよいか。
事務局	・そのとおりです。
委員	・23ページ、26ページの市民会議の写真が被っていることは問題ないと思うが、69ページにも同じ写真が使われているので変更は可能か。
事務局	・69ページの写真は変更させていただく。
委員	・24ページの下の方に高浜市に長く住みたいと思う人の割合というグラフがあるが、色を区別できるように工夫できないか。例えば10代と70代の色はそんなに変わらないように見える。
事務局	・点線、破線を用いて修正させていただく。
委員	・みんなでできることと地域展望の色はあわせてあるのか。
事務局	・地域展望の表は文字が見にくくなるので、似た色を使わせていただいている。
委員	・もう少し色を似せてもらえるといい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・色の調整についてチェックをしてもらいたい。 ・ほかによろしいか。ご三方からは大変大事なご意見をいただいた。 ・まだ気づくところがあれば、事務局に言ってもらえればと思う。このような

	軽微な修正については、事務局に一任することよろしいか。
	(意見なし)
会長	・承認いただいたものとさせていただきます。

2) 答申鏡文(案)について【審議】	
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・これで審議会としての計画書は固まった。 ・これをいよいよ市長に答申するわけだが、鏡文書の案について事務局で作成しているの、事務局より読み上げをお願いしたい。
事務局	(参考資料2 「第7次高浜市総合計画について(答申)」を読み上げ。)
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この文章案でよろしいか。
	(意見なし)
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この案をもって、市長に後程提出する。 ・以上で全ての審議は終了しているが、答申の手続きに入る前に委員よりコメントをいただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今日最終審議ということであるが、各担当におかれては細部までの調査ご苦勞様でした。また、有難うございました。今回の計画の策定にあたって、未来の目指すべき姿を描き、そこへ至る道筋や施策を講じることで目標の達成を目指すバックキャストという考え方で進んできた。その結果を是非出してほしいと思う。また、計画の推進ではPDCAサイクルの進行管理が中心であったが、OODAループという計画推進の手法も入ってくると聞いている。是非10年後の実りある成果を期待している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さまお疲れ様でした。一番率直に感じたことは、第7次総合計画は今後10年間で、まち協の年齢の高い人たちがこんなにもいいの、本来であればもっと若い人たちを中心に第7次総合計画は策定されるべきであったのではなかろうかと思う。これから10年間この計画を基に行政或いはまち協、その他の方々に努力をしていただき、この目標を達成していただきたいと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・有難うございました。そしてご苦勞さまでした。今回審議会に入れさせていただき思ったことは、バックキャストという大きな考え方に変わったということ。私にとって気にしていたのは、地域計画との関係で、総合計画と距離が近づき、リンクして第一歩が踏み出せたと感じられた。コメント用紙の回答でも頂いたように、少し距離があるように感じていた。目標値に向けてのお互いの進め方というのは非常に大事だと思う。仲間感というか、距離のない進め方をしていただきたい。5年後10年後をどうやって見定めて、まずはどうやって5年後を顔合わせてやることになるのか、もう少し毎年、或いは2年間隔ぐらいで記憶のあるうちに次のステップを踏むようなことをやっていただきたいと思うので、今後の動き方について大

	<p>変期待をしながら私も地域の計画を進めていきたい。それと同時に総合計画の内容を皆さんにもお知らせしながら進めていきたいと思うので宜しくお願いしたい。有難うございました。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私もこの審議会に入ったときからあまり現状がよく分からず、皆さんに教えてもらって、この計画ができてきて、ようやく何をやるのかというのが分かってきたというところで1年が過ぎた。あまりお力になれず申し訳ないと思っている。つい最近のことで私は老人クラブに入っているが、老人クラブで集まっている、いこいの家が古くなってきて廃止となる。なぜかという、高浜は財政力がなくなかなか新しいものに建て替えることができないということだ。この頃思っているのが、計画を達成するには財政が基本になってくる。今回の計画では財政力指数、収入と支出のバランスは出ているが歳入はどのぐらい増えていくのかははっきりしない。今更ではあるが市の方としては、この10年間どういう形で歳入を増やしてきたのか、増やす方法を真剣に考えていただきたい。そうしないと、やることもできなくなる。最後にそれをお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・膨大な資料からこれだけのものができるということは凄く労力のいることだと思う。私はまち協で、どちらかと言うと実働部隊、つまり末端の方で草刈りをしたり、PRをしたりということをやっているが、それがみんなのできることというところに表して頂いて大変有難いと思う。こういうことが皆さんに知れていくといいなと思う。共有という言葉が沢山出てくる。「みんなで目標と取り組んでいく内容を共有するために」、それから「高浜市に関わる全ての方が共有する計画である」と書いてある。娘にこれを読むかと聞いたところ、一言「読みません」といった。ではどうしたら共有できるか。そこがこういう計画を作るときに一番大事なことなのかと思う。「総合計画が目指すゴールをみんなで共有し」と書いてある。こんな難しいことはないのではないかというのが実感である。作っていただき大変有難いが、これを何とか実現できるように行政も、我々まち協も頑張っていけないと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料がどんどん進化し、余白のページを入れてもらったことで見やすくなった。皆さんずっとこういうことが頭から離れず、これまで一生懸命やってこられたのだなと資料を見て思った。会議に参加してみても思ったのは、まず女性が少ないということ。今後の市民会議等も含め、女性と男性が半々ぐらいの割合で構成され、そこに外国籍の方や障がいを抱える方が加わっていても違和感のないような会議になっていくと色々な意見が出て、みんなのまちになるのではと感じた。5つのまち協がある中で気付いたのは、港小学校区だけは港まち協ではなく、南部まち協という言い方をするのだと。これは伝統的なものなのか、分かれば教えてもらいたい。私も色々勉強させていただいた。いい市民になれるよう暮らしていきたい。有難うございました。

委員	<ul style="list-style-type: none"> 元行政職員であるので、行政の皆さんの立場も分かるが、他自治体では名前だけの会議が多い中、高浜市の会議は名前だけでなく中身のある会議が多いと前々から感じている。特に今回の会議では、様々な意見を反映させていただいたり、皆さんで話し合える機会があったり、とてもいい会議だったと思う。私自身まちづくりに取り組むときに、想い一徹でやることが多く、こういうことをやりたいというのがあると、直ぐに、ではやりましょうとなることが多いが、最近はビジョンが大事だと思ふことがある。先日、高浜市を盛り上げたいという何人かと集まったときに、皆さんの想いを聞くとバラバラでそれをまとめて実現するのは難しいと感じ、ビジョンの大切さを感じた。私は、市民会議のとりまめをさせていただいたが、皆さんの想いを実現しましょうということと、もう一つ、高浜市のために実現しましょうということに、ビジョンを統一したつもりである。その中で、今回総合計画に一人ひとりにできること以外にまち協さんを始めとする地域でできること、行政の皆さんで考えられた計画、市民と地域と行政が同じビジョンをもって作った冊子だと思っている。とはいえ、パブリックコメントは実施しているものの、一部の市民の方とこの会議の皆さんの上でしかこの総合計画が知られていない。これをまちづくりの自分事にしないといけないと思っている。職員の方一人ひとりも自分事に思う取組、地域の皆さんも自分事に思う取組をすれば本当にいいまちになると思う。引き続き宜しくお願ひしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> この2年間、地方自治、住民自治について勉強させていただいた。この計画についても先ほどお話しにあったように進化してきたと感じており、ある部分は分かりやすく柔らかく描かれている。例えば、68ページにまちづくり協議会とあるが、その中ではイラストを使ってまちづくり協議会が目指す状態が描かれている。まちづくり協議会ではコミュニケーションを大切にされており、それは、これまでも十分にそうされてきているが、これからも目指していくことだと思う。この姿はここにとどまらず、例えば市民会議やこの会議でも、時間はかかるものの繰り返し話し合いを重ねることで考え方を共有し、新しいものを生み出していっていると感じる。面倒なことが多いと思うがこういったことを色々な場面で、我々市民も行政も作っていく必要があると感じた。もう一つは、70ページにある場面に応じた改善行動の実施というところで、個々の取組が同じベクトルを目指して動いている点である。まるで風車が回っているような印象を受けた。行政の縦割りという点においては、それぞれのところでは鋭意努力されていると思うが、同じベクトルというのが大きな狙いがあり、市全体を魅力的でいいまちにしていくと、ただここにはっきりと明記はされていないが一つの取組のことが、隣の取組の動きへの力になっていると感じた。それが右から左への矢印のところでは表現されているのではないかと。このような隣の動きの原動力になるということも大切にして今後やっていけるといいと思った。こういった改善をしていくわ

	<p>けだが、これがしっかりと動いていくには正しい評価が必要かと思うし、私達も自覚しながらやっていきたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい計画ができたと思う。行政の皆さんの頑張りに感謝申し上げる。審議会委員にさせていただき、また色々な方とお知り合いになれ、とても嬉しく思う。私たちは多文化共生に取り組むのだが、地域の力が必要で、私たちだけでは絶対にできるものではない。皆さんにお会いし、色々な話をお聞きし、ここだけではなく、つながりができたことを嬉しく思う。高浜市の中で多文化共生を含むまちづくりを進めるために、今回第一歩、そして、このまま引き続き皆さんと共に色々なことができるといいと思っている。私自身もこの計画を立てるにあたってどうやってやればいいのか、市民会議に外国籍の方と一緒に参加し一緒に考えてきた。外国籍の方は一緒に参加したいという思いが強いのもよく分かったし、この地域の皆さんに分かっていただくチャンスがもらえたとも思っている。私の中では計画はスタートしていると思っている。皆さんと共に10年後を目指して邁進していきたいと思っている。有難うございました。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さまお疲れ様でした。審議会委員として、商工会を代表して参加させていただいた。今回、行政の取組の総合計画を作成するという10年に1回、5年に1回のことだと思うが、本当に自分自身も勉強させられたと思っている。民間企業的にいうと、会社の経営計画をつくるようなものと最初に私が申し上げた。10年間の長期経営計画を作っていくということになるが、行政の皆さんが作る総合計画というのは、企業が作るものとは全く違う。骨子は同じであったとしても市民の皆さんにとってより良いまちをつくるということは、我々営利企業としての取組とは全く違うということを改めて感じ、いかに作り上げることが難しいかを感じることができたのは本当に勉強になったと思っている。ここまでくるまでに色々なステップを踏んできた中で、審議会委員として好き勝手に意見してきたと思う部分もあるが、結果的に素晴らしいものが出来上がったと思う。あと一点、年齢的な話が先ほどあったが、私自身もこの総合計画に一市民として、諸団体の関係者として、サポート、フォロー、進捗、色々な部分で10年後の高浜市がどうなっていくかを確認していきたいと思っている。そして、私は今朝ベトナムでの忘年会から帰国している。日本では自粛の雰囲気がある。コロナでの自粛もあるが、社員が忘年会をやりたくないと思っている日本の空気感がある。ベトナムでは経営者も従業員も忘年会を大切にしている。忘年会のために来年に向けて頑張る、望年会としてやられている。彼らは物凄いエネルギーをもって取り組みをしている。今の日本の大きな課題というのはこういったものを皆とにかに共有していくか、一緒に体験していくかというのが本当に大事なことだと思っている。そういった中で高浜市というのは小さなまち、ミニマムなまち、そこは高浜市の一番いいところであり、隣近所の方と顔を合わせること

	<p>が多いまちだと思っているので、若者を巻き込みながらこの10年間がいい形で推進されていることを望んでいる。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> 他の委員の方が感想を述べているので、私からは個人的な反省を述べると、市民目線で意見をということで参加させていただいたが、やはりものが出来上がってくると、体裁や語句の使い方等、重箱の隅をつつくような話が出てきて、それに固守したことが反省している点であり、全体が見えなかったのが申し訳なかったという気がしている。他市の総合計画も見せていただいて大筋で日本全国向かっていく目標は変わらないという気がしていて、あとは基本計画が実施計画のアクションプランをどうしていくかによって違ってくると思っている。これからアクションプランが出てくるので、どのように行政の方が作成されるのか興味がある。新しいものを作ろうとすると何かを壊さないといけない。当然財政的に余裕があるわけではないので、新しいことがあると、何か壊してそこへ金をつぎ込むことになる。それがどういう形で出てくるのが非常に興味がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 皆様から貴重な意見をいただいた。振り返ると令和元年の12月に職員のプロジェクトを立ち上げたのが総合計画の始まりで、本日出席している部長たちの策定委員会を庁内で組織している。そして市民会議といって市民の皆さんにそれぞれの分野のところでご助言をいただき、SDGsの勉強会をする等、本当に長い間ご協議いただき、この審議会での審議の結果が今ここにあるものだと思っている。今委員の皆さんからお話しをいただいた中で、財源のことや、共有といったこと、個別の課題への意見等、一つひとつの意見をお聞きし、まさに第7次総合計画で掲げる「人と想いが つなぐつながるしあわせなまち 大家族たかはま」を創っていくためのご意見をいただいたと感じた。前回の会議でも申し上げたように作って終わりではなく、皆でやっていくこと、一人ひとりにもやるということ、今後スタートラインに立つことになるので職員も一丸となり、それぞれが意識しながら一つの目標に向かってやっていきたいと思っているので、皆様どうぞよろしくお願ひしたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> 私も一委員として一言申し上げたい。一つはこの計画を市民全体のどのぐらいがお読みになるかということですが、私は全員が見ることは無理だと思っている。あえて申し上げると、この計画書をお読みになるのが市民の1%を目標にしてはどうか。つまり、約5万人の都市ですので、500人が真面目にこの計画書を読むということ。そのぐらいの人をまず確保すること。それ以上にもっと多くの方が分かりやすいようにというなら、概要版を作ることのできるだろう。そして、子どもに高浜市の今後の10年間の取組について教える授業があってもいいと思うが、これは学校のカリキュラムが飽和状態なので無理であろう。そうすると、どこでそれを実施すればよいか、実は社会教育という場がある。生涯学習と言われる社会教育分野で何らかの

趣味や教養で参加する前の必須科目として人権やまちの計画の概要を学ぶことをしなければ、登録グループになれないような制度を開発するというとも考えるべきではないか。ヨーロッパでいうシチズンシップエドゥケーション、市民教育、それがこれから必要になると考える。つまり、私が言いたいのは、現代はいくら言ってもポリティカルアパシー、政治的無関心の病気から逃れることはできないため、そこから脱出できる市民の1%の層を獲得すること。そのために生涯学習、或いは住民の直接参加を求めるような参画と協働という仕組みを各部局必死になってやってほしいということ。どの部局も仕事のファンクラブを作る競争に入っているというぐらいの気持ちをもってもらい、市民1%作戦は、やがてその1%の市民が5人の仲間をつくり、またその仲間が5人の仲間をつくるようになっていけば、倍々ゲームで凄いことになるはず。それを信じてやるのが大事かと思う。そのような優れた未来を構想するというを吉本隆明風に言うと民俗学で共同幻想というが、このようなしっかりとした共同幻想をもつということ。確信してその未来にぶつかっていこうということ。それが実はバックキャストिंगということであり、こんな未来を創りたいと覚悟し、そのために総力をあげて頑張ろうということ。反対にフォアキャストिंगとは、こういうことが起こると困るから今のうちに手を打とうという対策である。つまり、この計画には防災や防犯などといった対策的な部門と未来を作り上げていこうという政策的部門とが混在している。その未来を創ろうという政策的部門がバックキャストिंगを考えるならば、そんな夢物語みたいなことを言うなという態度を止めようではありませんか。そうしないと、私が今言った市民1%作戦は成立しない。その中で最もコアとなってくれるものは何だろうと考えると、実はソーシャルマイノリティの人たちである。のんびりと充足している人たちが行動するのではなくて、何らかの矛盾を感じている人たちこそがアクティブになってくる。そういう意味で社会的に少数の人たちをきちっと視野に入れた計画でなければならぬという指摘があったかと思う。このような話は現代に限った話ではなく、古代のローマもそうだった。古代ローマもやがて衰える時期になったときに何が起こったか、歴代の皇帝はパンを配り、年に数回のサーカスを自分の金で展開し、市民の関心を買うことに必死になった。これは今の時代と変わらない。その時代に護民官であるとか、執政者・コンスル等に対する投票をする人たちは何%であったか、統計は残っていないが全員ではないという話がある。つまり無関心というのは、古代からある。システムに対する過信、システムを担っているスタッフに対する過信、見下す気持ち、そういったものがこのポリティカルアパシーを作っている。それを克服する原理は参画と協働。それを各部局競争してやってくださいということ。参画協働はある部署の担当の仕事ではない。何度も言うように全部局例外はない。A市では水道局が水道ファンクラブ作って必死になっ

	<p>てやっている。そういう仕組みをこれからどんどん仕掛けてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高浜の総合計画の優れているところは、行政の計画と思わせないように市民も一緒になってやっていただくことをはっきりと示したこと。これはむしろ高浜市にとっては、しんどいことかもしれないが、全国の自治体がこのような計画に切り替わりつつあるので、そのモデルの最先端を走っているという自覚をもってもらいたい。これをきちっとやり遂げないと笑われるだけ。もう引くに引けない全国のお手本になっているので、頑張ろうではありませんか。
--	--

3. その他【答申】	
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは答申の手続きに入ります。事務局お願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの時間をかけてご審議いただき、誠に有難うございました。それでは、答申書の提出をお願いしたいと思います。会長さん、市長は前へお願いします。
	<p>— 会長より、答申文書を読み上げ答申書の提出 —</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・有難うございました。会長さんは席へお戻りください。市長よりお礼のご挨拶をさせていただきます。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんこんばんは。明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。外が寒いというわけではありませんが、本当に身の引き締まる思いで答申をいただいた。皆様には大変なご苦勞をおかけした。本当に有難うございました。少し重いです。十年間の高浜市の進路がここに描かれていると思うと皆さまには大変ご苦勞をおかけして素晴らしいものを作っていたと思う。6次の総合計画ができたときに私は市長になった。今12年目になるが、この11年間で社会は色々と変わってきた。リーマンショックの直後にはじまり、震災があり、今のSDGsの概念である環境問題がクローズアップをされ、最後にはコロナが流行し、国際情勢が大きく変わった、激動の11年であった。それを踏まえた上での第7次総合計画はどうなるのだろうと思っていた。第6次から7次にかけて、「つなぐ」という言葉と「大家族たかはま」という言葉が活かされた。これは多分皆さんが10年間の中でも一番大事だと、地域のつながり、人のつながり。思い起こしてみると災害だとか、世界情勢の変化だとかを考えてみても、そうだなと納得するところである。それと、それぞれが一緒に手を取り合ってやっという「大家族」という想いのこの2つは、皆様の心の中から引き続き次の計画にも活かそうとなっていたのだと改めて思った。計画はこれから、議会に諮られる。先ほどから市民会議の皆様がそれぞれできることをやっていただける、それを市民の方に広めていく、計画は作って終わりではないのだと

	<p>というお話しがありました。議会で審査される際に議員の皆様も自分たちもこの計画でやれることをやらなければいけないのだという想いを込めた質疑が出ることを期待している。市民の皆様と作り上げた計画であり、議会でも審査される中で、我々は、私は、何ができるのだろうかということを考える議会になるといいと思っている。まさに、1人称で語るまちなならないといけないと何年か前に職員に言った覚えがある。計画は、全て1人称で書かれているのだと私は思っている。そのように思っただけの方が沢山増えていくことを期待し、また、先生を始め本当にご尽力をいただいた委員の皆様には深く感謝を申し上げ、ここまで作り上げるのに大変苦労した職員にも感謝を申し上げ、最後のご挨拶にしたいと思います。本当に皆様有難うございました。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは最後にここまで計画を作り上げてきてくれました委員の皆さまと写真撮影をさせていただきたい。
	<p style="text-align: center;">—写真撮影—</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に事務局から事務連絡をいただき解散としたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録については、前回と同様にまとめ次第、委員の皆様へ送付し、ご確認いただいてから公開させていただく。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・以上で滞りなく議事が終了したが、委員の皆様には心から感謝を申し上げる。それと共に、大変な苦勞をしていただいた事務局の皆様、執筆に携われた幹部の方や担当の方々に感謝の意を捧げたいと思う。有難うございました。